

令和 6 年度 日本農業気象学会中国四国支部大会シンポジウム
「乾燥地研究の最前線」
開催要項

1. 趣旨

乾燥地は陸域面積（南極大陸を除く）の 40%以上を占め、そこには約 30 億人が生活しているとされます（IPCC、2019）。一方で、乾燥地は人為的、気候的な要因によって砂漠化するリスクがある脆弱な生態系であるため、砂漠化を防止する適切な土地利用が求められています。鳥取大学乾燥地研究センターでは、そのような乾燥地の重要性を理解し、持続可能な社会の実現に貢献すべく、世界各地で様々な観点から乾燥地研究を展開してきました。本シンポジウムでは、その中から一部の研究をご紹介します。

出典：IPCC (2019) Climate Change and Land: an IPCC special report on climate change, desertification, land degradation, sustainable land management, food security, and greenhouse gas fluxes in terrestrial ecosystems.

2. 開催日時

11 月 28 日（木）15:10～17:15

3. 開催場所

〒680-0001 鳥取市浜坂 1390

鳥取大学 乾燥地研究センター 多目的ホール（国際共同研究棟 1 階）

4. 内容

15:10～17:15（司会：坪 充）

以下、発表者氏名および所属に関しては登壇者のみを記載します。

15:10～15:15 開会挨拶 坪 充（鳥取大学乾燥地研究センター副センター長）

(1) 乾燥地の気候学的現状と土地利用

木村 玲二（鳥取大学乾燥地研究センター）

(2) Envisioning the sustainability of rangelands and pastoralism in the Eurasian drylands

Banzragch Nandintsetseg（International Platform for Dryland Research and Education, Tottori University）

(3) 半乾燥地の草原における生産性に対する温暖化の影響

寺本 宗正（鳥取大学乾燥地研究センター）

(4) ゴビ砂漠の観測で解明した黄砂発生条件とそのモデルへの応用

黒崎 泰典（鳥取大学乾燥地研究センター）

17:15 シンポジウム閉会

5. 問い合わせ先

鳥取大学乾燥地研究センター 木村 玲二

Tel : 0857-21-7031 E-mail : rkimura@tottori-u.ac.jp